



ノートルダム大聖堂の火災

会長 高木 裕

おかげさまで、新潟・フランス協会の定時総会も無事に終わり、新年度の事業計画も承認されました。この1年、有り難うございました。これから始まる令和の時代も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

ご承知のとおり、定時総会の前日、朝のテレビニュースで、パリのノートルダム大聖堂が燃え上がる映像が流れました。ニューヨークの貿易センタービルへのテロの映像を見たときと同じく、衝撃を受けました。悪夢の印象です。これまで、パリを訪れるたびに、パリに滞在していたときも、セーヌ川のシテ島に悠然と聳えるノートルダム大聖堂があり、心癒やされる思いをしたもので

した。セーヌ川の流れを無情に過ぎ去る時間にたとえる詩人は多いですが、ノートルダム大聖堂は、その悠久の時間の流れに身を浸しながらも、時間に抗う巨人のように屹立していました。

ノートルダム大聖堂の建立が始まった12世紀は、アメリカの歴史家ハスキンスが「12世紀ルネサンス」と名づけた、文化の花開いた時代でした。修道院制度が定着し、大学がヨーロッパ各地に誕生し、ロマネスク建築が完成し、ゴシック様式の建築が始まる、そして聖母マリア信仰が広まった時代です。ノートルダムNotre-dameは、貴族の奥方dameではなく、庶民の(私たちの)奥方様という意味で、聖母マリアを指すものです。この時代、ヨーロッパ各地にノートルダムを冠した大聖堂、教会の建築ラッシュが起きました。パリのノートルダム大聖堂も12世紀に建設が始まり、13世紀に完成を見ました。

長い歴史の中で、数々の歴史的場面を見てきた貴婦人ノートルダム。「たゆたえども沈まず」は、パリ市の標語ですが、シテ島からセーヌ川を睥睨する大きな船のようなノートルダム大聖堂にふさわしい言葉だと思います。そういえば、大型帆船のことをフランス語ではnefと言いますが、同時に、教会の身廊を意味する言葉でもあります。今回の火災で、天井部分が焼け落ちたように見えますが、「たゆたえども沈まず」の言葉通り、大聖堂が再生(ルネサンス)することを願わずにはられません。

ルダム。「たゆたえども沈まず」は、パリ市の標語ですが、シテ島からセーヌ川を睥睨する大きな船のようなノートルダム大聖堂にふさわしい言葉だと思います。そういえば、大型帆船のことをフランス語ではnefと言いますが、同時に、教会の身廊を意味する言葉でもあります。今回の火災で、天井部分が焼け落ちたように見えますが、「たゆたえども沈まず」の言葉通り、大聖堂が再生(ルネサンス)することを願わずにはられません。



「酒…」

代表理事 本間 彊

僕は酒を飲まない。いや、飲まないのではなく一滴も飲めないのだ。どうやらアルコールを分解する体内の「アルデヒド脱水素酵素」が著しく不足しているようだ。遺伝であろう。世間ではこのような種類の人を「下戸」と呼ぶ。飲めないことを自覚したのは高校生の頃だから、人生の大半を飲まずに過ごしてきたことになる。会報「ボンジュール」の編集者からお酒の特集号を組むので「お酒への想ひ」というテーマで書いてほしいと言われた。冗談なのか、フランスのエスプリなのか、飲めない者の鬱屈した気持ちを綴れという意図なのか判然としないが、僕にとっては難解なテーマだ。とは言っても酒が飲めない僕と酒の縁は大いにある。会合と称する集まりは酒抜きではあり得ないし、宴会、接待、食事会、パーティーなど、酒は人と人との関係を豊かにする大きな役割があるように見える。たまに例外もあるが。僕は毎日のように会合に出るのが仕事だから酒はいつも目の前にある。その存在価値を認めつつ関わることはないという覚めた関係である。

しかし蔵元やワイナリーなどの酒造りの思いや製造工程には職人的な関心があって、深く学びたい好奇心も湧いてくる。先日、プチ・サロンで講演して頂いた麒麟山酒造の齋藤俊太郎さんのお話は実に意外だった。日本酒の需要が落ち込む中、首都圏や海外などに販路を求め売上を確保しようとするのが蔵元の販売戦略のように思えるが、麒麟山酒造は実は逆なのだ。

高級な吟醸酒も大事だけれど、所謂「伝辛・でんから」、伝統の辛口のように高価な酒ではないが地元の人たちが毎日嗜む酒づくりを経営の柱にすると言うのだ。驚きでもあった。ふつう付加価値の高い製品を中心に並べ売上を増やしたいと考えるのが定石なのだから。地域への眼差しと、伝統文化や風土と共に生きてゆく姿勢に感銘を受けた次第である。

豊かな自然の中で、地元の農家がつくるお米を原料に、さらに作る人たちの和を加えて生まれる清酒は、人が自然や風土の中に寄り着くことでもあろう。

酒はいのちの水。人は酒を飲むために生きているのか、生きるために酒を飲むのか下戸には判断がつかないものである。

酒は風

久須美酒造株式会社 代表取締役会長 久須美 記迪

「日本酒は、土地の米と水と人情と自然が醸す風・永六輔氏」は、私の座右の銘。

1987年、私は初めてフランスに行った。もちろんワインの勉強のためである。フランスと聞くと、シャンゼリゼ通りに代表されているように、それまで私は、先進国、ファッションブルなイメージを強く持っていた。しかし、ドゴール空港に近付いた時、私の考えは一変した。それは、上空からのパリの町と、その郊外にひらける広大な農地を見た時、この国は農業国でもあるのだ、と知らされたからである。

見学は、ボルドー、ブルゴーニュ、コニャック、ローヌ地方のワイナリーを主に歩いた。当時フランスには2万余のワイン工場があり(日本酒の蔵元は1,800社弱)、どこかのワイン工場も、その土地で穫れた葡萄を原料に用い、土地の自然の中でゆっくり育んでいた。どのワイナリーも自社のワインに誇りを持ち、その醸造は、酒は神が人間に下さった贈物として、あくまでも自然にさからわず、シンプルに醸していた。

片田舎のレストランに入ってワインを注文すると「うちの料理にはこのワインが一番合う」と、必ず土地のワインを自慢げに出して来る。日本の状況とは大違いであり、まさにワインはそれぞれの土地の風であった。

バスツアー予告

2019年10月5日(土) 恒例のバスツアー!! 久須美酒造 他訪問予定です。お楽しみに!!

「フランス人が好む日本酒について」

株式会社グラムスリー 代表取締役社長 坂本 明

パリ新潟専門店 Kinase(キナセ)は、昨年7月にパリの左岸ボン・マルシェ近くにオープン致しました。新潟のいいものの発信源として、皆さまに可愛がっていただき、おかげ様で1周年を迎えることができました。

キナセでは、食品や工芸品の他、日本酒を数多く取り揃えておりますが、美食の国・ワインの国であるフランスで、流行に敏感なパリっ子、美食家たちからも新潟のお酒は大好評です。特に白ワインに近い味わい、純米吟醸や純米大吟醸など吟醸香のするフルーティなテイストのものが好まれます。中には、「日本酒然」としたしっかりと米の香りがするものを求められる愛好家もいらっしゃいます。また、日本らしさが伝わる毛筆体で書かれた漢字のエチケット、特にナショナルカラーである青色を使用したものが人気でホームパーティーへ持参された際にも写真映えのする「見ても飲んで楽しめるお品」として、お遣い頂いている様です。

新潟清酒の魅力

麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長 齋藤 俊太郎

淡麗辛口と言われてきた新潟清酒ですが、キレのよいスッキリとした味わいである淡麗さは受け継ぎながら、今では辛口一辺倒ではなく、甘口タイプのもの、酸味が強いもの、加熱殺菌をしない生タイプのもの、搾ってすぐに出荷する搾りたてタイプのものなど様々なお酒が造られています。また、それぞれのタイプの中でも、水やお米、また使用する酵母などその原料由来による違い、山間部や平野部など製造された地域由来による違いなどがあり、同じものは二つとない八十九蔵の豊かな個性の集り、それが新潟清酒の大きな魅力です。

この個性豊かな新潟清酒、それは決して偶然のものではなく、先人たちが創意工夫を積み重ねてきた結果なのです。その一つは全国一の人数と卓越した技を誇った越後杜氏の存在です。

理にはこのワインが一番合う」と、必ず土地のワインを自慢げに出して来る。日本の状況とは大違いであり、まさにワインはそれぞれの土地の風であった。

この時から更に9年後の1996年の夏、フランスワインの一大原産地であるブルゴーニュ地方のヴィラール・フォンテン村に、知人(評論家・立花隆氏とソルボンヌ大学教授で後に学長のジャン・ロベール・ピット氏)からのお誘いで、小さなワインシャトーを共同購入し、4年間ワイン造りを経験した。

村の人口は180人、世帯数は60軒しかないほんとうに小さな村。ワイナリーの名称は「シャトー・ドゥ・ヴィラール・フォンテン」と言い、その名の通り泉には清らかな美味しい水が湧き出していた。

フランスの良さは「田舎にある」とよく言われる。これまで海外旅行を嫌がっていた妻が、ワイナリーの取得により、どうしても行かなくては事が済まなくなりました。

現地に着くと、そこには絵画のような美しい村があった。屋根瓦は赤レンガ色に、外壁はベージュ系に統一され、丘の緑に包まれている。そしてボヌの街まで車を走らせると、ルネサンス時代の建物が、時を越えて私たちに語りかけてくる。「まるでお伽の国……」いつの間にか妻の目が輝いていた。

と同時に私は、いつの日か、越後平野の一隅の「風」になりたいと心に決めた。

人数的には少なくなってきましたが、その技は現在の酒蔵にもしっかりと受け継がれています。そして日本酒を専門に研究する県の機関、醸造試験場の存在も大きく影響してきました。伝承の技が基本のこの業界で、専門知識を有する研究員が化学的知見から各社に酒造りを指導してきたことで、新潟清酒の品質レベルは格段に上昇しました。また杜氏制度が薄れてゆく中、杜氏後継者の育成を目的に新潟清酒学校が創設されました。いまではこの卒業生が各社の中心となり酒造りを牽引しています。

このように技術面におけるしっかりと取組みがあったからこそ、新潟清酒の品質が上がり、その名を全国に、そして海外に広めることができたのだと思います。いまでは全国各地に優れた品質と個性あふれる日本酒が沢山ありますが、新潟清酒もこれまで培ってきた技術力を生かし、これからもぶれることなく新潟らしい「淡麗」な味わいを追い求め、そのステイタスをさらに高めていきたいと考えております。皆様方の益々のご支援を宜しくお願い申し上げます。



2018.10.24
秋の例会

フランス伝統の大衆音楽が パリの路地裏から聞こえてくる・・・ 伊藤 薫

秋が深まりゆく10月24日、2018年秋の例会が開催されました。
例会のお楽しみはワインパーティーと恒例のコンサート。今秋の例会のご出演は「スウィングミュージッククラブ」です。
フレンチ・ボタンアコーディオンとマカフェリタイプと呼ばれるジブシーギターを中心に編成されたアコースティック・ユニットの「スウィングミュージッククラブ」は新潟で唯一と言われています。リーダーの田中トシユキさんはジャストリオAtagiinアタジーンが2000年、フランス・ナント市のジャズフェスティバル Les rendez-vous de l'erdreに初めて招待され、新潟・フランス協会と共にナントを訪問。ナント市では、様々な舞台上で演奏、新潟とナントの交流を深めてくれました。その音色を秋の例会で再現。
アコーディオンの音色に触れるのは、何年振りだろう。小学生の頃は当たり前日常にある楽器で

した。「フレンチ・ボタンアコーディオン」という楽器名は、今回のコンサートで初めて知りました。「フレンチ」という名前を持つアコーディオン。ジブシー・ジャズギターに深い関わりのある「マカフェリ」タイプと呼ばれるジブシーギター。そしてコントラバスと魅惑的なボイス。長閑で豊かな弾みある音色を、そして染みる哀愁を奏で、心躍らせる演奏。「スウィングミュージッククラブ」の四人の笑顔と音色に魅惑され、フランス・パリの路地裏を想起するようなステージの香りに会場はひとときパりに飛びました。
演奏の心地よい余韻を残しつつ、ワインで乾杯。ワインの香りとスウィングミュージッククラブのスウィングに酔う「秋の宵」でした。



2018.11.10
バスツアー

小布施へのたび 鈴木 裕美

待ちに待った年1度のフランス協会バスツアーは雨が心配されましたが、参加者16名全員の心がけが良かったお陰か、大雨には見舞われずにすみました。かえって途中のしっとりとした山々の彩られた美しさを期待したくらいでした。
いつもどおりたっぷりのワインやおつまみをご準備いただき、心は小布施と岩崎ちひろ美術館に馳せました。
小布施といえば栗の印象が強いのですが、実際、ご案内もいただいたお陰で和洋の栗のお菓子を入手・味わえました。この地はまた地方活性でも有名で、仕掛け、実行された酒蔵さんにてグラス、スズ盃を傾けて温まりました。浮世絵美術館を楽しまれた方もおられました。裏路地をお連れ頂いたときに目にしたドウダンツツジの真っ赤な色が、今でも目に焼きついています。
昼食はロイヤルホテル長野のレストランアンジュールにて本格フランス料理に舌つづみをうち、

銘々好みのワインやシールドを注文。普段話せない夫々の話しに耳を傾け、代表理事はじめフランス通の方の話に食も進みました。
岩崎ちひろ美術館では入り口で通行証を頂き、作品のみならずちひろ氏のおしゃれでかわいいプライベートも垣間見ました。黒柳徹子氏とかかわりも知ることができ、ショップでの買い物にも余念なく美術館を後にしました。また心豊かさを持ち帰ることが出来た楽しい旅でした。
今回はやむをえずご参加叶わなかった会長からの美味なチョコの差し入れもあり、何より企画いただいた協会、幹事さんにも心からお礼を申し上げます。次回の企画にも期待しながら解散後の帰路に着きました。



2018.12.17
クリスマス例会

音楽との出会い 日比野 則彦

昨年末の例会では惜越ながら私のような者に演奏の機会を頂き、心より感謝申し上げます。
私は音楽を生業としておりますが、私は自分に音楽の才能があったから、音楽を選んだわけではなかったように思います。
幼少期の私は、人とのコミュニケーションが極端に苦手でした。友達とも遊ばず、耳を塞いで一人でいるような子供でした。生きる術として身につけた会話能力も、うわべだけでしたので私の心とはリンクせず、人の言葉もその真意を汲み取ることが全くできませんでした。
しかし音楽だけは心を超えて、魂の領域に響いてくることを感じていました。私は言葉のかわりに音という意思疎通の道具を与えられたのだと思います。
もし楽器が上手くなることだけを目指していたら、才能の限界を感じた時に私は音楽を止めていたでしょう。もし芸術的な高みを追求していたら、人間の限界を感じて病気になるかもしれません。

音楽との出会い、それは、私にとって「いのちとの出会い」でした。春に美しい花が咲き、鳥や虫が美しい音色をありのままに奏でる。それと同じように、音楽は「こんな私が生きていて良いのだ」という「いのちの賛美」だと思っています。音が別の誰かの音と交わる時、それはいのちが交わり、新たな賛美が生み出される特別な瞬間だと思います。
例会では浮世絵が当時の絵画芸術の粋を超えたものであったこと、またそれがフランスの印象派と呼ばれる絵画や同時期の音楽に大きな影響を与えたことを語らせていただきました。北斎のいのちが、フランスのいのちと交わり新たな賛美を生み出す。そこに人間の理解を超えた美しさが紡ぎ出されていくのではないかと思います。



ガバチヨのねごと

今回のテーマは酒です。酒はお祝い事でも呑みますが、戦に出かけるときに飲み干した杯(かわらけ)を飲み干し割るといふ光景が鮮明に浮かんできます。酒のイメージには和みと固い決意の二面性がありますね。
平成元年に起こったことを思い出してみると、1番目に天安門事件があります。丁度、5月の末から6月の初めにかけて指導力研修のイベントに海外の人と一緒に参加して、仙台から横浜に移動する途中でこの事件が起きました。日本人の反応はさほどでもなかったと記憶していますが、ヨーロッパからの参加者が、民主主義と人権に対する反動的な行動として「横浜宣言」として発表しようと団結しました。この集まりにはゲストとして今上天皇陛下もいらっしゃいました。
2番目はベルリンの壁崩壊です。11月の初めにはイギリスのバーミンガムで会議に参加中に、主催者が『今ベルリンの壁が崩壊しています』と、興奮してアナウンスしました。西ドイツから参加した人は、お互いに抱き合っただけで感激していました。それが平成の始まりでした。
それから31年目が経過して平成から令和となりました。「世界はひとつ」と訴えている人もいれば、民族や宗教そして文化の違いで緊張が続く地域もあります。
技術の進歩で、世界は近くなりました。インターネットのおかげで地域のことが、フィルターをかけずに知ることが出来る時代になりました(逆にフィルターをしっかりとかけ、情報をふさいでいる地域もあります)。
穏やかに酒を酌み交わしたいものです。(萱場 和彰)

イベントカレンダー

- 2018.8/25 ⑤ ブチ・サロン
～「フランスのワイン」ソムリエ 榎 孝太郎氏～ ホテルイタリア軒
- 第29回フランス語講座 入門編
2018.10/4 ⑤、11 ⑤、18 ⑤、25 ⑤、11/1 ⑤、8 ⑤、15 ⑤
- 2018.10/24 ⑤ 秋の例会
～スウィングミュージッククラブが奏でるミュージックとジブシー・スウィングジャズ～ ANAクラウンプラザホテル新潟
- 2018.11/10 ⑤ 秋のバスツアー
小布施散策～安曇野ちひろ美術館～
- 2018.12/17 ⑤ クリスマス例会
～日比野則彦と日比野愛子が奏でるクリスマス～
ホテルオークラ新潟
クリスマス例会 116,250円を新潟市社会福祉協議会さまへ寄付いたしました。
- 2019.4/17 ⑤ 定時総会・例会
～越乃リュウ ソロコンサート～ 万代シルバーホテル
- 第30回フランス語講座 入門編 開催中
2019.5/23 ⑤、30 ⑤、6/6 ⑤、13 ⑤、20 ⑤、27 ⑤、7/4 ⑤
- 第4回フランス文化講座 始まります
2019.7/18 ⑤、9/19 ⑤、10/17 ⑤

ご協力
ありがとうございました。

予告 フランス旅行記
2019年5月11日～19日 フランス・ナントツアー
次号ボンジュールでご紹介します。お楽しみに!!

入会のお誘い URL: <http://anfrance.com/>
年会費/個人会員 5,000円 学生会員3,000円 法人会員30,000円
申込先/事務局または各会員へ
事務局:丸屋本店内 TEL・FAX 025(225)2424

イト商店 〒951-8068 新潟市中央区大川町10-1870 TEL 025-228-2337 FAX 025-228-7715	池伝株式会社 〒950-0963 新潟市東区新町2-848-15 TEL 025-275-5136 FAX 025-275-5139	イシカワ 〒956-0801 新潟市東区大塚738-1 TEL 0250-22-2000	Uoshoku 〒950-0951 新潟市中央区島屋町450-1 TEL 025-283-7288 FAX 025-283-7218	ANA CROWNE PLAZA NIIGATA 〒950-8531 新潟市中央区万代5-11-20 TEL 025-245-3333 FAX 025-243-0493	学校法人 エイシンカレッジ シェパティシ専門学校 〒950-0911 新潟市中央区万代2-9-1 TEL 025-242-0025 FAX 025-243-0026	酒類 小川 〒951-8041 新潟市中央区本町2-2597 TEL 025-228-1631 FAX 025-222-1051
片山商事株式会社 〒950-0868 新潟市東区新町1927-24 TEL 025-274-1180 FAX 025-274-1285	カヤバ 〒950-0916 新潟市中央区米山11-11-3 TEL 025-242-1577 FAX 025-242-1573	KIRIN キリンビールマーケティング新潟支社 〒950-8530 新潟市中央区東大通1-2-23 北館ビル4F TEL 025-245-2321 FAX 025-241-6381	gram3 株式会社グラムスリー 〒105-0013 東京都港区浜松町2-4-6 大塚ビル3階 TEL 03-6402-0303 FAX 03-6402-0302	JTB 新潟支店 〒951-8063 新潟市中央区西町1-1-30 TEL 025-255-5101 FAX 025-248-7867	リソゾート 万代ミッドビルホテル 〒950-8533 新潟市中央区万代1-3-30 TEL 025-243-0711 FAX 025-243-0720	J risk management 株式会社リスクマネジメント 〒951-8053 新潟市中央区川島町2-12-1 TEL 025-222-2025 FAX 025-222-2026
早福酒食品店 〒951-8162 新潟市中央区東山本町2-305 TEL 025-266-8101 FAX 025-266-8105	塚田牛乳 〒950-0213 新潟市江南区木津工業団地2-1 TEL 025-385-3911 FAX 025-385-4126	因とくなが女性クリニック 〒950-0932 新潟市中央区高瀬837-1 TEL 025-286-4103 FAX 025-286-4107	新潟グランドホテル 〒951-8052 新潟市中央区下大川町3-2230 TEL 025-228-6111 FAX 025-228-0735	新潟スライズリスト 〒950-0909 新潟市中央区八千代1-2-29 TEL 025-243-3177 FAX 025-243-0867	学校法人 新潟総合学園 〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46 TEL 025-255-5522 FAX 025-255-5523	ALSO 新潟総合警備保障 〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46 TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445
NCTS 新潟県立専門学校 〒950-0905 新潟市中央区東山町8-8 TEL 025-244-2161 FAX 025-247-7928	新潟日産自動車 〒950-0881 新潟市東区権町7-5 TEL 025-273-3171 FAX 025-275-5225	新潟新報社 〒950-0268 新潟市中央区万代3-1-1 TEL 025-385-7444 FAX 025-385-7446	新潟薬科大学 〒956-8603 新潟市東区東島265-1 TEL 0250-25-5000 FAX 025-25-5021	日南ホーム株式会社 〒950-0982 新潟市中央区区内1-15-6 TEL 025-241-2471 FAX 025-241-2488	JAM 日本アニメ・マンガ専門学校 〒951-8063 新潟市中央区古町5番町602-1 TEL 025-244-3008	日本旅行 新潟支店 〒950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 TEL 025-248-1000 FAX 025-248-1011
株式会社パウハウス 〒950-0916 新潟市中央区区内1-32-16 TEL 025-248-1960 FAX 025-248-1961	フェルミエ 〒953-0012 新潟市西蒲区藤原4501 TEL 0256-70-2646 FAX 0256-70-2647	藤田金属株式会社 〒950-8588 新潟市中央区八千代1-7-20 TEL 025-245-6666	ホテルイタリア軒 〒951-8061 新潟市中央区西町2-1574 TEL 025-224-5111 FAX 025-224-7679	ホテルオークラ新潟 〒951-8053 新潟市中央区川島町6-53 TEL 025-224-6111 FAX 025-224-7060	ホテル日航新潟 〒950-0078 新潟市中央区万代5-1 TEL 025-240-1888 FAX 025-241-0877	丸屋本店 〒951-8005 新潟市中央区東大通6-1038 TEL 025-271-6111 FAX 025-225-5133
meiji 株式会社 〒950-0141 新潟市江南区東山工業団地2-1-37 TEL 025-382-1056 FAX 025-382-1029	メルシャン株式会社 〒950-8530 新潟市中央区東大通1-2-23 TEL 048-612-5828 FAX 048-612-8081	よね蔵 〒950-9122 新潟市東区井土巻5-174 TEL 0256-64-7432 FAX 0256-64-7955	天朝閣 五十嵐邸ガーデン 〒950-1944 阿賀野市金屋340-5 TEL 0250-63-2100 FAX 0250-63-1600	新規会員様ご紹介 (個人会員様) 本間 茂 日比野則彦 日比野愛子 藤岡 利明 小嶋 佳彦 大野 勝則 堀 範子 藤田 紀幸 番場美和子 柳優美香 齋藤俊太郎 佐藤 大介 泉井 則広 松田 暢夫		